Vol.05　マイナーペンタの 1 オクターブのブロック

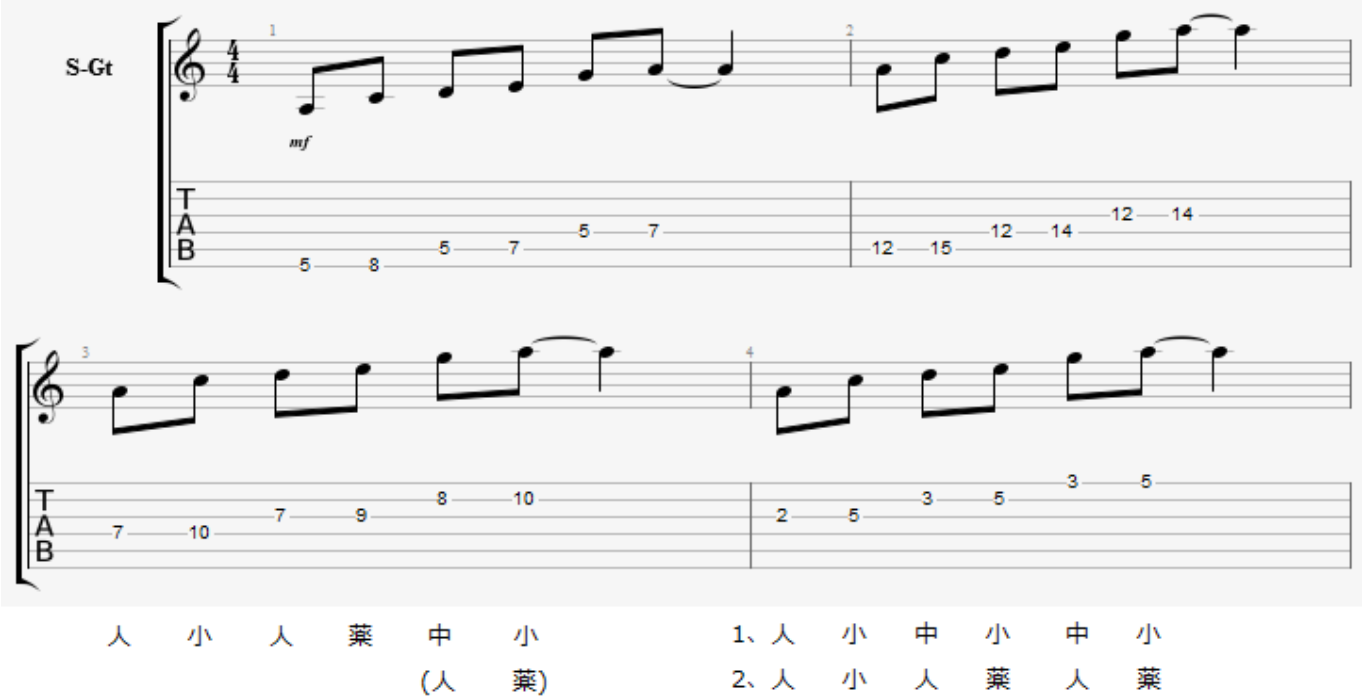
では、vol.05、やっていきましょう。

今回は、皆さんお馴染み、マイナーペンタトニックスケールです。

これを、トニックを A 音に設定して、1 オクターブのブロックに分けて弾いて行きます。

以前と同じ様に、各小節は繋げて弾く必要はありません。

譜例



3、4 小節目に、今回のトレーニングとしての指使いを載せていまね。

最初は戸惑うかもしれませんが、これは後々、ダイアトニックスケールを弾く時の布石なので、出来るようにしておきましょう。

特に、2 種類ある、4 小節目は重要です。

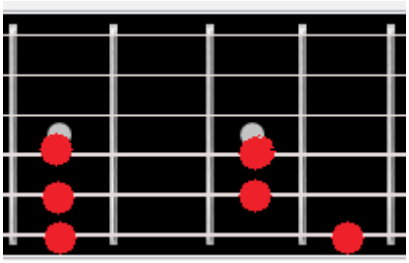
とは言え、この譜例は基礎力を付けるためのトレーニングなので、実際に楽曲を演奏するときは、必ずしも守る必要はありません。

その辺りは、自分なりの方法論で柔軟に対応してください。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

続いて、指板上での視覚的な形を確認しておきましょう。

ベースになっているのはこれですね。

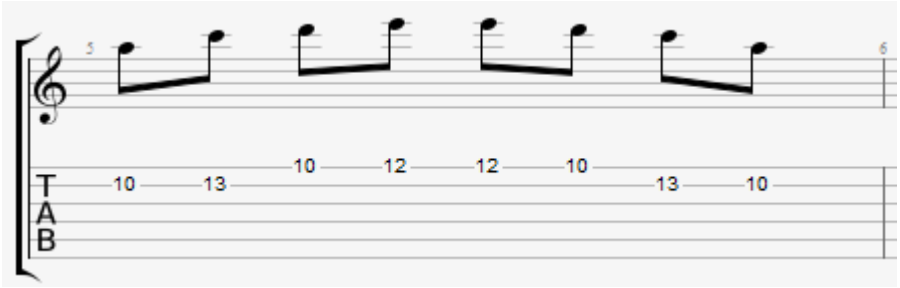


これを基本に見て、2〜3 弦間を通るとき、1 フレットずれる感じを掴んでおいてください。

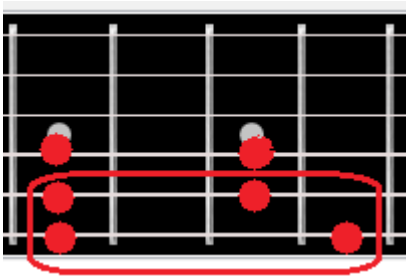
さて、先ほどの譜例では、上の図のブロックを丸々弾ける、3 弦トニックのブロックまでを載せていますね。

ですが今回は、もひとつおまけに、2 弦トニックのブロックまでやっておきましょう。

譜例



図で言うと、ここだけを弾いていることになります。



この半端な範囲のブロックは、個人的に好きでよく使うのですが、結構フレーズが作りやすいんですよね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

今狙っているトニック(例えば今ならA音)が、2弦上でパッと見えると、このブロックにすぐに手が行くようになります。

さらにこの場所で、1&2弦をメインにフレーズを作ってみると、使う音と弦が少ないので、プレイに対する迷いも減りますね。

自分の好きな所で良いので、こう言った、手癖ブロック(ポジション)をいくつか持っておくと便利です。

この辺りを使った、フレーズ作りアイディアについては今後やっていきますので。

今はまず、ブロックそのものに手を慣らしておきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved